

2026年05月05日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ゴールデンウィークの真っ最中】

まさに、ゴールデンウィークの真っ最中です。

多くの人たちが、家族と行楽地にいるのだろう、と感じます。

どことなく、都内の人口が少ない気がします。

都内の大きな公園では、子供連れの家族が、日陰に簡易テントを設置して、くつろいでいました。

天気が良いので、より一層微笑ましい風景でした。

+++++

毎年繰り返しお伝えしていることですが、市場参加者が極端に少なくなるゴールデンウィークの期間中は、マーケットが薄くなり、経験則が通用しなくなるので、できる限り休むことをお勧めしています。

ゴールデンウィークは日本の連休ではないかという指摘もありますが、世界中の市場参加者は、当然に、東京市場が休みになることを知っているので、それに合わせて休暇を取ったり、積極的な取引を控える傾向が強くなります。

+++++

ただし、今年のゴールデンウィークは、決してニュースが無い訳ではありません。

米国とイランの戦闘は、一時的な停戦状態ですが、当然のことながら、全く予断を許しません。

この情勢に変化があれば、外国為替市場に影響が出る可能性は大です。

このゴールデンウィークの最中にも、そういった変化が出ることもあり得ます。

そして、ゴールデンウィークが始まってからの4月30日に、日本の当局は為替介入（ドル売り円買い介入）を実施した模様です。

日本の当局は、ゴールデンウィークの薄いマーケット（外国為替市場）の期間中に、円安が進んでしまうことを避けたかったのだろう、と推測します。

今回のこの為替介入は、効果的だった、と感じています。

+++++

カレンダー通りのゴールデンウィークは、明日（2026年5月6日水曜日）で終了ですが、今週末（2026年5月8日金曜日）には、重要な米国経済指標である「米国雇用統計」を控えています。

この「米国雇用統計」も、外国為替相場を大きく変動させる可能性がある、と考えます。

そういった意味で、今週末（2026年5月8日金曜日）の「米国雇用統計」を見てから、ゆったりと構えて外国為替市場に参加すれば良い、と考えています。

+++++

あえてゴールデンウィーク中でも相場に参加する場合は、片手間ではなく、万全の態勢で臨み、致命傷を負わないように注意する必要がある、と考えます。

+++++

（2026年05月05日東京時間13:30記述）